

名東鯨友会の一年を振り返って

令和2年4月13日

令和元年度

名東鯨友会会長 三輪治敬

人類全てが目に見えない極小のウィルスに翻弄される毎日、そんな中、医療・介護・福祉等危険と隣り合わせで世の中を支えてくださっている方々の、使命感に燃えて日々奮励されている姿勢に心打たれる思いです。

翻って名東鯨友会も年度変わり、例年なら総会やら業務引継ぎやらで多忙を極める時期ですが、今年に限っては活動らしい活動は何もできない状態です。

そんな中でやっていることと言えば、多分実行困難と覚悟しつつ作品展や鯨城会前会長を偲ぶ会等を企画・調整・連絡・準備し、挙句の果て中止することを皆さんに連絡するといった、正にマッチポンプのようなことだけで、ただただ家に籠って嵐の過ぎ去るのを待つ毎日です。

原稿を書いている今は4月中旬、発刊される頃には何とか収まって平生に戻っていることをひたすら祈る気持ちです。

昨年度は名東鯨友会会長として陣頭指揮を任されましたが、会員各位、特に役員や学区幹事の皆さまの絶大なるご協力を得て、楽しく一年をやり終えたことに安堵しており、関わっていただいた方々に深く感謝申し上げます。

昨年度は新たな三つのプロジェクトを立ち上げ、入会后三年目までの会員の負担をかなり縮小できたこと、プロジェクトのリーダーの奮闘よろしく、どの企画も多くの会員が参加し盛況を博したことが特に印象に残っています。

あれもやらねば、これもやらねばとの思いばかりが先行して落ち着かない日々でしたが、今になってみればこれもよい思い出となりました。

今年度はまだどうなるのか見通せない状況ですが、来年の今ごろにはウィルスに打ち勝ち、その後の活動が楽しかった、と言える一年とならんことを祈念しています。

一年間ありがとうございました。